



光村図書が提案する これからの国語 読む力が未来をひらく

語彙力

主体的・対話的で
深い学び

情報の扱い方

》何が求められているの？

新学習指導要領では、「読むこと」の指導事項も大きく変わりました。予測困難なこの時代、どのような「読む力」が求められているのでしょうか。

捉える／	読み深める／	自分の考えをもつ／
<ul style="list-style-type: none"> 要旨 心情 設定 論理 	<ul style="list-style-type: none"> 内容を解釈 複数の情報を整理 文章と図表の関係 文章を比較 批判的に読む 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを確かなものにする 知識や経験と結び付ける 考えを広げたり深めたりする



ジャーナリスト
池上 彰

子供たちの日常には、文字情報があふれています。web サイト、広告、SNS。中にはフェイクニュースや誇大広告のように、意図的に歪められた情報も紛れています。

このような時代には、**文章を批判的に読む力が不可欠**です。同じ事実でも、書き手の視点が違えば、受ける印象はもちろん、事実さえも違って見えます。複数の情報を比較して客観性を吟味したり、出典を見て信頼性を確かめたりする必要があります。受け身ではなく**自分の頭で考えながら読み解く力**。それが、これからの時代に求められる「読む力」です。



児童文学作家
安東みきえ

子供時代、世界は謎であふれている。なぜ月は欠け、なぜ花は咲くのか。そしてなぜあの子は怒っているのか、なぜ泣いているのか……。大人と違って、経験の乏しい子供にとって、他人の心はとりわけ深い謎である。

しかし、その**謎を解く鍵は、本の中に見つ**られる。**登場人物と一っしょに怒り悲しむ**読書体験で、共感性が育つからである。共感性が備われば、それぞれの違いにもまた気づかされるものである。**共感する心と違いを認め合う心**、この二つこそが多種多様な世界で、これから生きる子供たちに必要な力だと信じている。



光村図書編集委員
港区立赤坂中学校教諭
甲斐利恵子

読むことは本来、個人的な「体験」です。描かれた世界に入り込むことで、登場人物の経験や、筆者の思考の筋道を追体験できます。

では、「教室で読む」ことの意味とは、何でしょうか。それは、**読むことで得た内的な体験を、客観的な言葉で語り直す試み**といえます。鍵になるのは「展開」「伏線」「象徴」などの**学習用語**です。自分が今、何について語っているのか、観点を明確にしながら言語化し、考えや解釈を交流していくことで、生徒たちは人間について考えを深め、「**自分**」を再発見するのです。

光村図書の

主な「読むこと」教材

※初めて掲載された年を示しています。

昭和30年	昭和37年	昭和41年	昭和44年	昭和47年	昭和56年	昭和62年	平成5年	平成14年	平成24年	平成28年
少年の日の思い出	走れメロス	故郷	ラスコー洞窟の壁画	フィンダカバチの秘密	法隆寺を支えた木	ちよっと立ち止まって	野原はうたう	モアイは語る	星の花が降るころに	作られた「物語」を超えて
ヘルマン・ヘッセ／高橋健二訳	太宰治	魯迅／竹内好訳	中谷宇吉郎	アンリ・ファールブル／古川晴男訳	小原二郎	桑原茂夫	井上ひさし	安田喜憲	安東みきえ	山極寿一
						大人になれなかった弟たちに……	工藤直子	星野道夫	布施英利	鷺田清一
							握手	アラスカとの出会い	君は「最後の晩餐」を知っているか	誰かの代わりに
							向田邦子	椎名誠		
							字のない葉書	アイスプラネット		
							三浦哲郎			
							盆土産			
							米倉齊加年			

